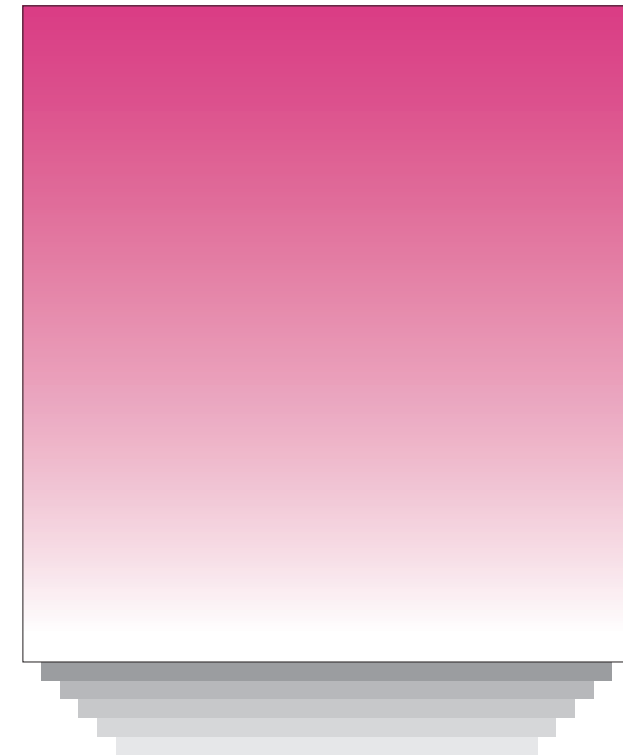


近畿大学 教育論叢

The Research Journal of the Teacher Education Department
Kindai University

第35卷第1号



2023

■ 近畿大学教職教育部 ■

近畿大学教育論叢

第三十五卷第一号

令和五年(二〇二三)九月

近畿大学教職教育部

 近畿大学

目 次

原著論文

学校のモノの歴史に関する近年の研究動向

——その研究の可能性と課題に関する考察——

Recent Research Trends about the History of “Things” of School : A Study about Possibilities and Problems of this Research Areas

…………… 林 潤平 (HAYASHI Jumpei) … 1

オーストラリアの「現代史」論述試験に求められるスキル

——大学入学資格試験「現代史」模範解答の分析より——

Essay Writing Skills for Modern History, New South Wales, Australia:
Analysis of Ideal Answers

…………… 下村 隆之 (SHIMOMURA Takayuki) … 33

ペスタロッチーの「メトデー」を再考する

——ペスタロッチーの経験と確信、そして実践知の形成——

Rethinking of Pestalozzi’s “die Methode” :

Pestalozzi’s Experience and Conviction forming Practical Knowledge

…………… 光田 尚美 (MITSUDA Naomi) … 49

教育実習における数学の授業から見えてくること

What can be found from Mathematics Lessons in Teaching Practice

…………… 山崎 晃昭 (YAMAZAKI Teruaki) … 63

生徒達の実験結果の発表についての教師用教材開発に関する一考察

A Study on the Development of Teaching Materials for Students’ Presentation of Experimental Results

…………… 西仲 則博 (NISHINAKA Norihiro) … 81

高等学校理科での実践に基づいて開発した思考力向上トレーニングの基本デザイン

Basic Design of Training to Improve Ability to Think Developed Based on High School Science Classes

…………… 吉川 武憲・高橋 朋子

…………… (YOSHIKAWA Takenori・TAKAHASHI Tomoko) … 97

小学校外国語教育における「言語活動」の意味するところ
——あらためて見直す、その用語の概念と使用——
Defining “Language-use Activity” in Elementary School English Education:
Clarifying the Term from Multiple Perspectives
..... 田邊 義隆 (TANABE Yoshitaka) ... 109

聴覚障害学生に情報保障を超える学習環境整備を
Learning Environmental Improvement beyond Information Security for
Students with Hearing Impairment
..... 頭師 暢秀・佐々木 愛歌
..... (ZUSHI Nobuhide・SASAKI Aika) ... 121

八代集紀伊国の和歌について
On the Waka poems of Kinokuni from Hachidaisyu
..... 金田 圭弘 (KANEDA Yoshihiro) ... 141

国語科教育と文学教材（2）
——三浦哲郎「盆土産」〈精読〉の試み——
Japanese Language Teaching Materials and Literary Teaching Materials（2）：
Tentative Assumption of Intensive Reading “Bonmiyage (Tray Souvenir)” by
Tetsurou Miura
..... 中田 睦美 (NAKATA Mutsumi) ... 157

〈書評〉

駒澤真由美著
『精神障害を生きる——就労を通して見た当事者の「生の実践」』を読んで
..... 山本 智子 (YAMAMOTO Tomoko) ... 177

編集発行内規

投稿要領

編集後記

『近畿大学教育論叢』編集発行内規

第1条 近畿大学教育論叢（以下「本誌」という）は、教職教育部が年1回以上発行する。

第2条 本誌の編集、発行の任にあたるため編集委員会を置く。

2. 編集委員会は、委員長1名、委員若干名をもって構成する。
3. 委員長、委員は、教職教育部教授会の承認を経て、教職教育部長が委嘱する。

第3条 投稿者（執筆者）は、原則として本学園教職員に限る。但し、編集委員会の議を経て教職教育部長により投稿を認められた者はこの限りではない。

2. 投稿者は、別に定める「投稿要領」に従って、原稿を作成することとする。

第4条 原稿の校閲および採否の決定は、編集委員会が行う。

2. 編集委員会は、投稿原稿の本誌掲載の採否を判断するため、審査を行う。
3. 編集委員会は、投稿者に対し、上記審査に基づき、内容の修正等を求めることができる。

第5条 編集発行内規の改正に関しては、編集委員会の議を経て、教職教育部教授会で決定する。

第6条 当該原稿の著作権は、著作者および共著者に帰属する。

2. 著作者および共著者は、当該原稿に係わる複製権、公衆送信権及び譲渡権の許諾を近畿大学に与えるものとする。
3. 近畿大学が当該原稿の電子化・公開を委託する機関に対して、公衆送信権および複製権の許諾を与えるものとする。

附 則

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

『近畿大学教育論叢』

(The Research Journal of the Teacher Education Department, Kindai University)

投稿要領

1. 原稿は未発表のものに限る。投稿の区分は、原著論文、研究報告、書評、その他とする。
 - (1) 原著論文は、理論的または実証的な独創性のある研究、および独創的または有効性のある教育実践研究、教材・教具・教育システム等の開発研究とし、論文として完結した体裁を整えているものとする。
 - (2) 研究報告は、教育を扱う研究論文に準じたものとする。
 - (3) 書評は、教育に関する図書の紹介や批評とする。
 - (4) その他、編集委員会が認めた区分を適宜設けることができる。
2. 投稿数は、号ごとに1本までとする。同じ号に複数の投稿は認めない。
3. 原稿は原則として、ワープロを使用して作成、提出するものとする。
4. 原稿締め切り時に、原稿のコピー2部と投稿票兼宣誓書1部を提出する。校閲後、掲載が決定した論文については、原稿コピー1部と、訂正したデータをメールで編集委員会に提出する。
5. 原稿には表紙を付し、次の事項を記入する。
 - (1) 表題（含む副題）
 - (2) 表題の英文（含む副題）
 - (3) 氏名、所属、職名
 - (4) 連絡先（教職教育部の専任以外の投稿者の場合、メールアドレスを含む）
 - (5) 別刷りの必要部数（規定部数を50部とし、それを超える分は自己負担とする）
 - (6) キーワード（5個以内）
6. 原著論文の場合、用紙はA4判を用い、原則として横書きで原稿を作成する。40字×30行の書式で、原則30枚以内（表紙、本文、文献、図、表を含む）とする。研究報告10枚以内、書評・その他3枚以内とし、原著論文と同様の書式で作成する。

英文の原著論文の場合は、原則としてAPAに準拠し、10,000語以内とする。提出に際しては、専門家の英文校閲を経たことを証明する書類を添付する。
7. 本文中で、活字の大きさ、書体を変える場合は、具体的に指示する。
8. 表、図、写真などは、刷り上がりの大きさを指定し、具体的に指示する。
9. その他原稿の投稿に関しては、編集委員会で協議する。

10. 投稿原稿の執筆は、次の通りに行う。

(1) 英文の題名、副題、著書名については、すべての単語（前置詞および冠詞 the などを除く）の最初を大文字にする。

(2) 英文論文題名の副題は、コロン（:）で分ける。

(3) 和文の句読点は、（、）（。）を用いる。文献では、コンマ、ピリオドを認める。

(4) 図は、Figure1、Figure2 あるいは、図 1、図 2 とし、表は、Table1、Table2 あるいは、表 1、表 2 のように通し番号をつけ、論文内で統一された表記を使用する。

(5) 必要に応じて大見出し、中見出し、小見出しを用い、その表記は次のようにする。

大見出し 1. 2. ……

中見出し (1)、(2) ……

小見出し ①、② ……

(6) 引用文献・資料は、以下のように記述する。なお注について文献を示すことも可能とする。

著者名、発行年、題名、出版社、引用ページ数（頁、ページ、p など）

著者名、発行年、論文名、雑誌名、ページ

令和 3 年 4 月 1 日改訂

編 集 後 記

2023年5月、私たちを翻弄した新型コロナウイルス感染症が、5種に引き下げられ、まだまだ予断は許せないとはいえ、徐々にかつての日常が戻ってきたように思います。観光地などにも多くの人々が姿をみせ、失われた3年間弱を取り戻そうとしているかのように日々の生活を楽しんでおられるようすをみて嬉しく思っております。コロナ禍によって、多くの人々が混乱し大きな不安を抱える中で、私たち研究者が学んだものも多くありました。オンラインやオンデマンドの授業形態をとらざるを得ない中で、学生たちの学修を担保するために、さまざまな工夫や方法がなされるようになり、教育における可能性を開いたように思われます。

これから、どのように世界や社会情勢が変化しても、そこに立ち向かう姿勢が育まれ、そしてそれが今後の研究へのより大きな意欲を生み出したと考えています。第35巻第1号には11本の論文と1本の書評が投稿され、コロナ禍で失った「時間」を取り戻し、より多くの知見を世の中に伝えていこうとする執筆者の研究への力を感じさせていただきました。まだまだ残る不安定な状況を、研究や教育を通して打破し、新たな世界を創造していけるよう、進んでいきたいと思っています。

近畿大学教育論叢編集委員会

山本 智子、下村 隆之、光田 尚美、椎名 健人

近 畿 大 学 教 育 論 叢 第35巻第1号

令和5年9月20日 印 刷

令和5年9月20日 刊 行

発行人 近畿大学教職教育部長
堀 緑

発行所 近 畿 大 学 教 職 教 育 部

577-8502

東大阪市小若江3丁目4番1号
